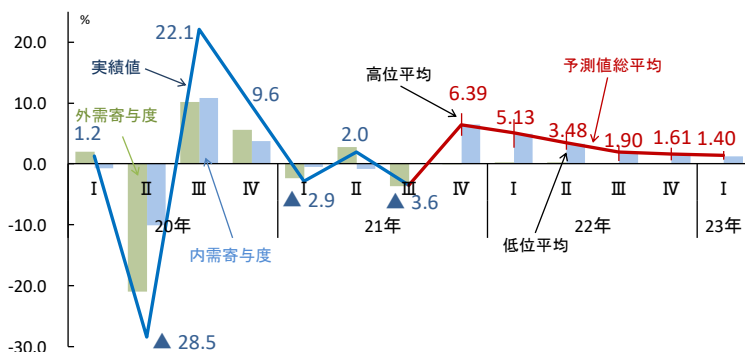


1 2021年10~12月期の実質経済成長率(前期比年率)は6.39%。

21年10~12月期の実質経済成長率(前期比年率)は6.39%と、7~9月期のGDP速報値公表前に集計した前月調査より上方修正された。以降、23年1~3月期まで徐々に低下する見通し。



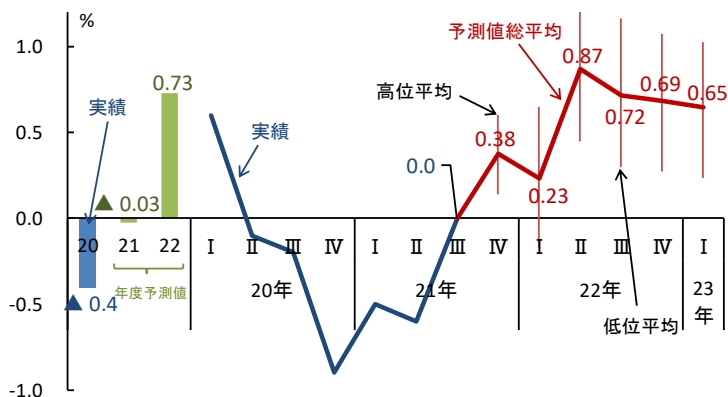
◆21年IV期(10~12月期)実質GDP及び内訳の増減率(%)

実質GDP 前期比年率 (前期比)	民間最終消費支出	民間企業設備投資	財貨・サービスの輸出	財貨・サービスの輸入
6.39 (1.56)	2.24	1.86	0.96	1.05

(注) 内訳4項目は前期比。

3 消費者物価上昇率(前年同期比)

21年7~9月期の0.0%(実績)から、10~12月期に0.38%に上昇する。22年1~3月期に0.23%に低下するが、4~6月期に再び0.87%まで上昇、以降0.7%程度で推移する。21年度は▲0.03%で、22年度にプラスに転じる。

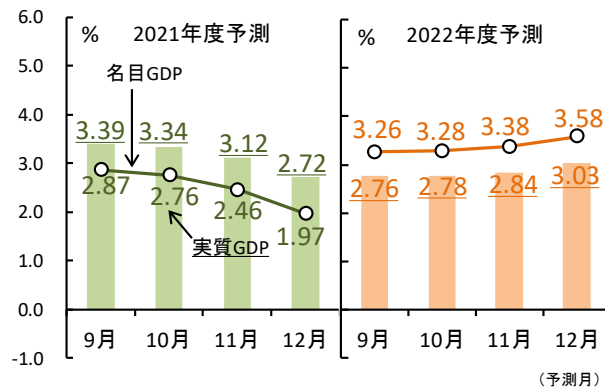


(注) 生鮮食品除く総合の前年同期比上昇率。

(特別調査) 2023年度CPI上昇率予測
平均...0.64% (高位平均...0.99% 低位平均...0.29%)

2 実質経済成長率は21年度2.72%、22年度3.03%。

21年度の実質経済成長率は2.72%と3年ぶりにプラスに転じる。22年度は3.03%となる。名目成長率も21年度以降プラスが続く。



(特別調査) 2023年度実質GDP成長率予測
平均...1.33% (高位平均...1.88%、低位平均...0.86%)

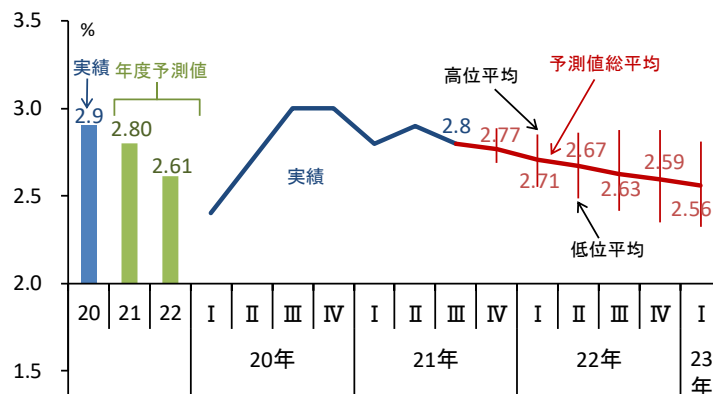
	2021年度	2022年度
内需寄与度	1.9(2.3/1.6)	2.9(3.6/2.1)
うち民需	1.7(2.0/1.4)	2.6(3.3/1.8)
うち公需	0.2(0.4/0.1)	0.3(0.6/0.0)
外需寄与度	0.8(0.9/0.7)	0.1(0.4/▲0.2)
実質GDP成長率	2.72(3.00/2.44)	3.03(3.70/2.31)

(注1) 値の見方: 平均(高位平均/低位平均)

(注2) 1・2の寄与度は簡易計算によるもので厳密なものではない。

4 失業率

21年10~12月期は2.77%の見込み。以降23年1~3月期まで低下が続く。



5 21年10～12月期の成長率（その他項目）

主要4項目以外の需要項目について、21年10～12月期の動きを尋ねた。上昇するという回答が多い項目は、「民間住宅投資」と「政府最終消費」だった。

（回答数 36、公的在庫変動のみ 35）

（実質）	民間住宅投資	民間在庫変動	公的固定資本形成	政府最終消費	公的在庫変動
上昇	27	10	17	23	1
横ばい	5	14	4	8	33
低下	4	12	15	5	1
回答数	36	36	36	36	35

（注）フォーキャスター数（名）。前期比伸び率の符号を質問し、プラスの場合に「上昇」、ほぼゼロの場合に「横ばい」、マイナスの場合に「低下」とした。在庫変動はGDP成長率に対する寄与度を尋ねた。

6 景気の転換点・・・20年5月が谷

20年5月の景気転換点（谷）（政府見解、暫定）の次の景気転換点（山）はもう過ぎたかどうかを聞いた。（回答数 34）

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・1名（前月調査0名）

転換点（山）は2021年4月・・・1名

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・33名（同36名）

今後1年以内に転換点（山）がくる確率の予測の平均・・・23.6%（同27.1%）

転換点（山）を過ぎたと思う人にその次の景気転換点（谷）も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・1名（前月調査0名）

転換点（谷）は2021年10月・・・1名

7 （特別調査）金融政策と金利見通し

1) 金利見通し

21、22年末の短期政策金利と長期金利の誘導目標の見通しを尋ねた。短期の政策金利は、21年末は回答者全員が現行並みの「▲0.1%以上0.0%未満」と回答し、22年末も「▲0.1%以上0.0%未満」が多かった。（回答数 36）

長期金利の誘導目標は、21年末は回答者全員が現行並みの「0.0%以上0.1%未満」と回答し、22年末も「0.0%以上0.1%未満」が多かった。（回答数 36）

長短金利の予想値分布 (%)		▲0.3 未満	▲0.3 ～ ▲0.2	▲0.2 ～ ▲0.1	▲0.1 ～ 0.0	0.0 ～ 0.1	0.1 ～ 0.2	0.2 ～ 0.3	0.3 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0以上
短期の政策金利	現行=▼	▼											
	2021年末				36								
	2022年末			1	35								
長期金利の誘導目標	現行=▼	▼											
	2021年末				36								
	2022年末			1	34	1							

（注）フォーキャスター数（名）。例えば、「▲0.1～0.0」は「▲0.1%以上0.0%未満」の意味。

2) 枠組み自体の変更

上記の見通しに関して枠組み自体の変更などを聞いたところ、長期金利の誘導目標の変更など2名のフォーキャスターが答えた。
[詳細は9ページ参照]

8 (特別調査)米国金利

1) 政策金利見通し

21～23 年末の米国の政策金利（FFレート・市場実勢値）の予想を尋ねた。21 年末は回答者全員が「0.0%以上 0.25%未満」と答えた。22 年末は「0.5%以上 0.75%未満」の回答が多く、23 年末は回答が分散する。

(回答数 21 年・22 年 36、23 年 34)

米FFレートの予想値分布(%)	▲0.75 ～ ▲0.5	▲0.5 ～ ▲0.25	▲0.25 ～ 0.0	0.0 ～ 0.25	0.25 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0 ～ 1.25	1.25 ～ 1.5	1.5 ～ 1.75	1.75 ～ 2.0
2021年末				36							
2022年末				2	8	22	4				
2023年末					2	1	7	9	7	8	

(注) フォーキャスター数(名)。例えば「0.75～1.0」は「0.75%以上1.0%未満」の意味。

2) 長期金利見通し

21 年 12 月末～23 年 12 月末の米国の長期金利（10 年国債）の予想を尋ねた。回答が多かったのは、21 年 12 月末は 1.5%以上 1.6%未満、22 年 6 月末は 1.7%以上 1.8%未満、22 年 12 月末は 1.9%以上 2.0%未満、23 年 6 月末は 2.0%以上 2.1%未満だった。23 年 12 月末は回答が分散する。(回答数 21 年・22 年 35、23 年 33)

米国の長期金利 (10年国債)の 予想値分布(%)	0.9 ～ 1.0	1.0 ～ 1.1	1.1 ～ 1.2	1.2 ～ 1.3	1.3 ～ 1.4	1.4 ～ 1.5	1.5 ～ 1.6	1.6 ～ 1.7	1.7 ～ 1.8	1.8 ～ 1.9	1.9 ～ 2.0	2.0 ～ 2.1	2.1 ～ 2.2	2.2 ～ 2.3	2.3 ～ 2.4	2.4 ～ 2.5	2.5 ～ 2.6	2.6 ～ 2.7
21年12月末	1					4	18	8	3			1						
22年6月末		1			1		1	6	12	8	3	2			1			
22年12月末				1		1			6	6	10	6	3	2				
23年6月末							1		1	3	6	10	3	6	1	2		
23年12月末								1	1		4	5	6	6	3	4	2	1

(注) フォーキャスター数(名)。例えば「1.0～1.1」は「1.0%以上1.1%未満」の意味。

9 (特別調査)経済対策の効果

21 年 11 月 19 日に閣議決定された「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」により GDP 押し上げ効果がどの程度見込めるかを尋ねた。平均で 1.79%、高位 8 機関平均は 3.15%、低位 8 機関平均は 0.83%だった。(回答数 35)

[詳細は 9 ページ参照]

◆経済対策による GDP 押し上げ効果 (%)

平均	1.79
高位8機関平均	3.15
低位8機関平均	0.83

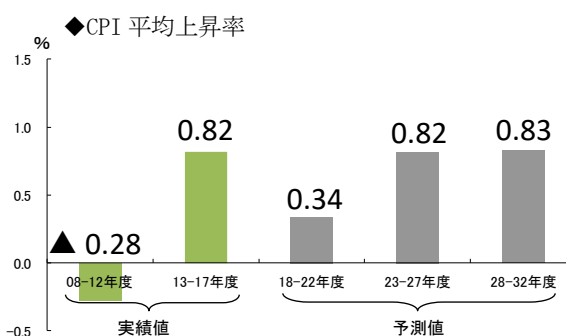
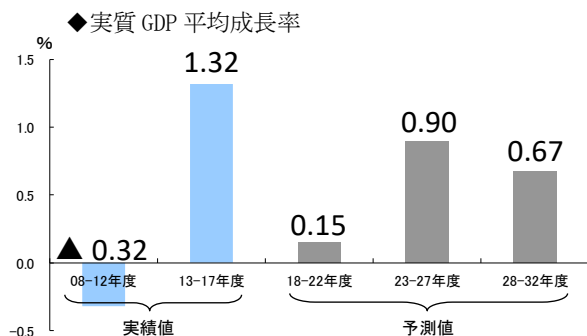
10 (特別調査)長期予測 (6 月、12 月に調査実施)

1) 実質 GDP 平均成長率

23～27 年度の実質 GDP の平均成長率は 0.90%、高位 8 機関平均は 1.39%、低位 8 機関平均 0.47%だった。(回答数 34)
さらにその先の 28～32 年度は 0.67%、高位 8 機関平均は 1.22%、低位 8 機関平均は 0.19%だった。(回答数 32)

2) CPI 平均上昇率

23～27 年度の平均物価上昇率は 0.82%、高位 8 機関平均は 1.49%、低位 8 機関平均は 0.37%だった。(回答数 34)
さらにその先の 28～32 年度は 0.83%、高位 8 機関平均は 1.49%、低位 8 機関平均 0.24%だった。(回答数 32)



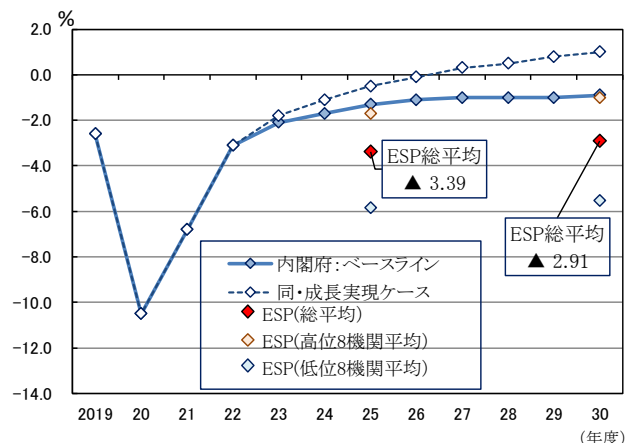
3) 国・地方の基礎的財政収支

25年度の国・地方の基礎的財政収支の名目GDP比は平均が▲3.39%、高位8機関平均が▲1.71%、低位8機関平均が▲5.85%だった。(回答数31)

30年度は平均が▲2.91%、高位8機関平均が▲1.02%、低位8機関平均が▲5.54%だった。(回答数30)

内閣府は7月の試算で、両年度の収支をそれぞれベースラインケースでは▲1.3%、▲0.9%、成長実現ケースで▲0.5%、1.0%と見込んでいる。

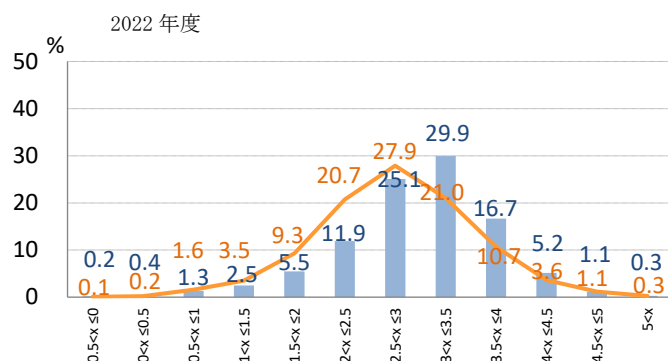
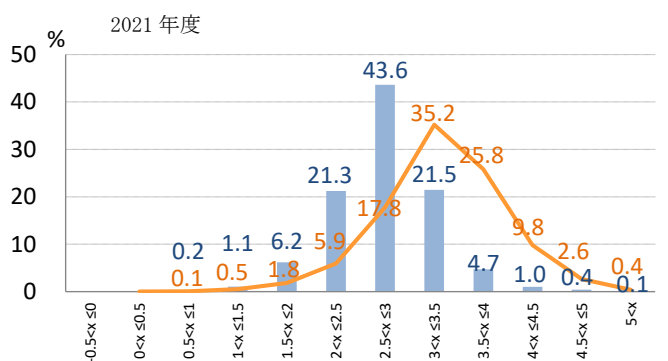
◆国と地方の基礎的財政収支(名目GDP比)



(資料) 内閣府「中長期の経済財政に関する試算」2021年7月

実質GDP増加率のコンセンサス予測の不確実性

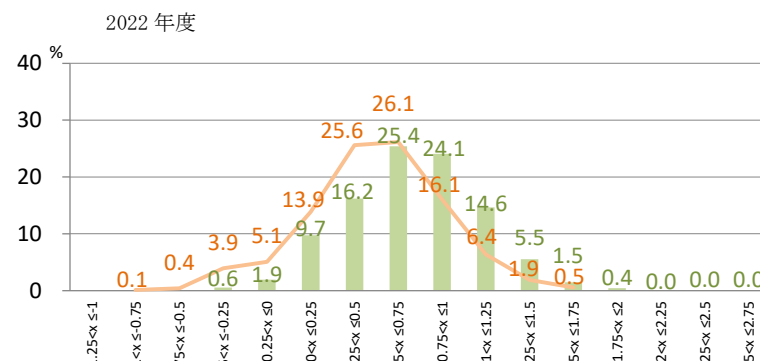
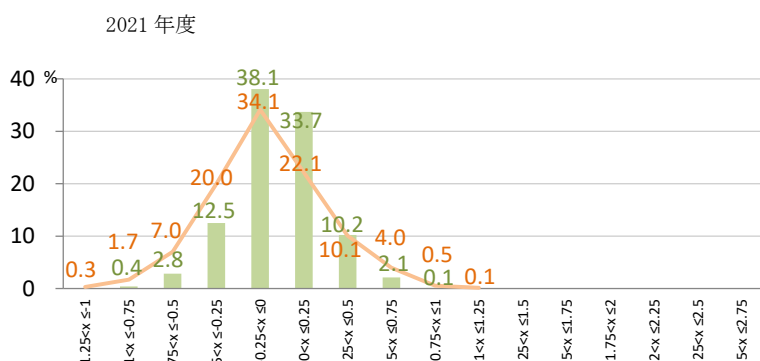
-各レンジの平均確率-



(注)各フォーキャスターが各レンジに付した確率の平均値。折れ線グラフは、21年9月の予測値。

CPI(生鮮食品除く総合)騰落率のコンセンサス予測の不確実性

-各レンジの平均確率-



(参考) 海外主要3カ国・地域の実質GDP成長率予測(暦年、%)

	米国	ユーロ圏	中国
2020年	▲3.4	▲6.4	2.3
2021年	5.56 (5.72)	5.06 (4.91)	8.05 (8.16)
2022年	4.01 (4.06)	4.03 (4.12)	5.20 (5.34)

(注) 20年は実績値。()内は前月調査。

次回(2022年1月調査)の公表予定は1月13日頃